

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2009年10月20日

第 318 号

この夏の出来事
つばさ静岡施設長 山倉 慎二

「つばさ静岡」が開設して4年が経過しました。今回は時間を遡りながら最近の出来事に話を展開したいと思います。

最もホットな話題は、厨房の直営化です。重症児者の食事は特殊な上に非常にデリケートであるため、これまでも調理法の工夫に始まり新しい食形態の開発など、様々な取り組みを行ってきました。ところが委託の企業とはどうしても温度差があり、息が合わないことも多くなってしまいました。そこでこの10月厨房を直営にしたのですが、これに当たって何よりも心配されたのはスタッフの確保でした。幸い熱意にあふれる優秀な調理師さんたちが集まって下さり、初顔合わせの集まりでも全く不安を感じることなく、前途明るい予感のうちにスタートを切ることができました。

さて、今年は梅雨明けが異常に遅く、それほど厳しい暑さを感じずに夏が終わってしまいました。その短い夏の終わりに夏祭りを開催しました。夏祭りは初年度が職員駐車場、翌年は正面駐車場、昨年は雨のため室内で、そして今年はインフルエンザの影響もあり外部の人とは接触しないよう中庭で、と図らずも毎年違った場所で行うこと

になりました。場所は違っても、夜に行われる唯一のイベントでもあり、利用者さんも浴衣や甚平姿に様変わりし、普段あまり口にするのではないお好み焼きやカキ氷、クレープなどに舌鼓を打ち、職員を中心とした趣向を凝らした催し物があったりと、すっかり夏の恒例行事として定着してきました。

8月のはじめには大地震(中地震?)があり、たいへん驚きました。早朝5時、大きな揺れに「ついに東海沖地震が来たか」と飛び起きました。しかし施設に特別大きな被害がなかったの、「これで東海沖地震が終わったのならラッキーだったかな」などと思っただけでした。ところが、東海沖地震はこんなものではないと、エネルギーはこの200倍だと、1万軒の家屋が倒壊すると、次々と脅しのような報道がなされて、改めて災害の恐ろしさを痛感させられました。今回の地震で、防災上のいくつかの課題や盲点が見つかり対策を立てることができたので、いつか訪れるであろう大地震に備えるための、また災害を再認識するためのいい機会になったと思います。

施設の新しい事業としては、この夏、夏季デイを本格的に始めました。特別支援学校に通っている重心の児童は、夏休みに入ると家に閉じこもってしまいがちで、生活のリズムが乱れて体調を崩す方さえみられます。そこで夏休みの楽しみの場として8月の平日のほ

ぼ毎日、重症児学童を一堂に集めて様々な活動を行いました。初めての試みでしたので最初はとまどうこともあったものの、いつも明るい雰囲気の中、多い日には10人ほどの学童でにぎわいました。なんとか無事に終了し、ご家族へのアンケートの結果でもたいへん好評をいただきました。今年の反省を踏まえて、来年はさらに充実した時間を提供できればと考えています。

そしてこの春に始まった新型インフルエンザの大流行。感染予防には万全の体制で臨んでいます。あまりにも神経質になると外出などの活動ができなくなってしまうため、何をどこまで制限するのかに悩まされる今日このごろです。恐らく2〜3年はこの流行が続くと予想されるので、あまり過剰な反応にならないよう、しかし一方気を抜くことのないよう、対処して行かなければなりません。

最後に、最近起きたこの国の行く末を左右する最大の出来事といえば政権交代。旧政権の下、崩壊の危機に直面している医療制度、障害者に背中を向けて行なわれた福祉改革、果たして新しい政権はどこまで未来を明るくして行ってくれるのでしょうか。政権交代に沸く今日この頃ですが、「つばさ静岡」も政権交代(施設長交代?)が望まれないよう、現状に甘んずることなく、より良い施設を常に目指して突き進んでいきたいと思えます。

つばさ静岡の日々

「利用者」と職員との交わりの中で
生まれたもの

つくしゾーンでの活動

井原 麻里子

つくしゾーンは、気管切開や呼吸器をしている方など、医療依存度の高い利用者が生活しているゾーンです。

医療的ケアが多く必要のため、活動時間を確保することが難しい場合もあります。週2回は午前か午後、日曜日は入浴を休んで、日中にゆっくり関われる時間を確保できるようにしています。

日々の活動は、各利用者の担当職員が、利用者の好みや身体的な状況に合



清水の海洋水族館へ出かけました

わせた活動内容を考え、プランに挙げ、その日の担当者がプランに沿って関わっています。

呼吸器使用の利用者は普段ベッド上での生活ですが、週に1回は車椅子に乗りリビングで過ごしたり、散歩に出かけたり出来るように配慮しています。月に1度はドライブの日があって、普段と違った風景や車の揺れを楽しんでいます。また、コンサートやお祭りなど、つばさ全体の行事にも積極的に参加しています。

このほかにも、月ごとの活動担当者が季節にあったイベントを企画・実施しています。

夏にはみんなですいか割りを楽しんだり、リビングの装飾を一緒に作って、海のような雰囲気になるように飾り付けをしました。

また、各利用者が、年に1〜2回ずつは、水族館やショッピングセンターなど、普段出かけられない場所に出かけていきます。多くの利用者が普段と違った場所や雰囲気を感し、いい表情になります。

新しい一面を発見して

「舞さんとの関わりから」

高木 麻衣

「わたぐも」の活動。それは私の生活の中で、とても楽しみな時間です。

利用者」と寄り添い関わりながら、一つのことを共有できる大切なひと時であるからです。

私が日々共に過ごす利用者は、日常生活において全介助を必要とします。また利用者の本当の意思や訴えを理解することが難しく、興味の対象も汲み取りにくい。わたしたち支援者は、個々に適した活動のねらいやよりよい支援方法を見つけていくことが求められています。その中で、一人ひとりの興味や自分らしさを見つけてあげることができた瞬間、それは私にとってこの上ない喜びとなります。

舞さんは、日頃自発的な動作がほとんど見られず、活動もその多くが受動的でした。しかし、ひとつの新しい発見が、舞さんに対する印象を変えることとなりました。

ある時、製作活動でいつものように絵の具のついた筆を舞さんと共に持ち、画用紙に色を塗っていました。私がふと介助の手を離してみると、舞さんが自分の力で筆をぎゅっと握っていることに気が付きました。しばらくそっと見てみると、かすかに筆をちょん、ちょん、と動かし画用紙に色がつき始めたのです。私は、驚きと共に舞さんの新たな一面を発見できたことに、大きな喜びを感じました。

その後、その発見を職員間で共有し、提供するものを増やしなから、1年間、日々舞さんの手の動きに注目していき



夏の間、バイトに入った学生さんとの記念撮影(わたぐも)

ました。すると、バチを握って鉄琴の音を出したり、朗読や歌を聴いて片手を左右に振っていたり、近くで話し掛けると私の膝をすりすりとしてきたり、その他にも活動の道具や素材を触り自発的に手を動かす姿がみられたのです。

活動の一番の目標は「達成」や「完成」ではなく、その過程で一人ひとりがどれだけ自分らしさを表現できたかということだと思えます。そして、その中で新しい一面を発見できた時、それは利用者の人生が豊かになることに繋がっていくということを舞さんとの関わりから学びました。

利用者の人生の一部をお預かりしているという仕事の重みと尊さを感じながら、これからも利用者の新しい面をたくさん発見していきたいです。そして、利用者の方々にとっても、「わた

ぐも」の活動が生活の楽しみとなるよう日々努めていきたいと考えています。

2009年 夏祭り

石田 有紀

8月23日晴天のなか、夏祭りがスタートしました。急遽、中庭へ会場を変更し行われた夏祭りでしたが、会場に集まって来る利用者のみなさんの、楽しそうな興味津々とした表情を見てとても安心しました。会場では、今年も多くの出店が凝ったメニューを揃え、賑わい、家族や職員とともに過ごす時間の楽しさを見守るかのように、大きな虹がかかっていました。

ステージを囲み注目が集まる中、フラダンスがスタートしました。職員が何ヶ月か前より練習しての披露となり、職員も緊張していましたが、みんなが



職員有志によるハワイアン演奏（夏まつり）

自分の動く手や足、身体を使い一緒にあって踊っている姿や、興味深く見たり聴いたり感じたりする姿に嬉しく、踊りやウクレレにも力が入りました。4度目となるつばさの夏祭り、毎年恒例の火舞は一味もふた味も違う演出となりました。

すっかり暗くなった中、点火されると再び注目を集め、みなさんの表情も変わりました。緊張感ある会場より火が風を切って回るごとに、「オーツ」と歓声が聞こえ、会場全体がひとつになり、感動を与えました。私たち職員も普段なかなか見ることの出来ない演技を間近で利用者のみなさんと見たり聴いたり、感じる事ができました。火が消えるとともに、大きな拍手のなか夏祭りが無事終了しました。

サッカー外出

野崎 悟

9月12日（土）午後、のどかゾーンの男性利用者2名で、Jリーグ 清水エスパルス対大宮アルディージャの試合を観戦してきました。当日は、午前より小雨が降る天気、外出が危ぶまれましたが、午後には回復に向かい外出することができました。

試合会場のアウトソーシングスタジオアム日本平では既に試合が始まっており、会場は大観衆でした。案内された席は、アウスターシートと言って、エ



スパルス側より招待を受けた障害者の方々が観戦できる席で、グラウンドの試合の様子を一番近くで見ることができました。到着直後、始めて観戦した利用者はテレビでの観戦では感じられない大観衆に、緊張した表情でした。しかし、選手の躍動する姿にすぐに引き込まれ、右へ左へ大きく蹴られるボールの行方を一生懸命目で追っていました。

後半の試合途中で帰園することになり、残念ながら得点シーンを観ることはできませんでしたが、利用者2名にとって大変有意義な外出になったと感じています。

かえてゾーンのグループ活動

伊藤 章乃

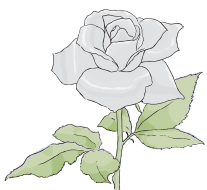
かえてゾーンでは月曜日と金曜日の午前にはガキ作りと染物を、2つのグ

ループに分かれて活動しています。昨年度からガキグループ、染物グループ共にゾーンから離れ別々の個室で活動を行なうようになりました。普段の生活の場から離れることで、今から活動を行なうということを利用者には伝えずに、なるべく集中して活動ができるのではないかと考えました。

職員が「さあ、みんな活動行くよ」と声をかけると、車椅子を操作し活動室に向かう姿や活動物品をしっかりと持つ姿が見られます。

ガキ作りでは、牛乳パックをちぎる、ミキサのスイッチを入れる等の作業工程があり、出来上がった作品は家族へのガキやゾーンの装飾で活用しています。染物では染色液にハープやハイビスカスの葉を使用しています。布をジップロックやペットボトルにいれ、振ったり揉んだりして色をつけていきます。染色液の温度を変え感触を楽しむ等の工夫をしています。出来上がったものを日常生活の中に取り入れ、見て楽しめるようにしたいと思っています。

活動の楽しみ方は利用者さんそれぞれ異なってきます。活動への取り組みは日が浅いですがそれぞれの利用者さんに合った作業工程や道具を工夫し、全員が活躍できる場にした다고考えています。



わかぎ 秋祭り



日時 21年11月8日(日)
10:00~14:30

ところ 支援センター わかぎ
浜北区平口5042

催し 模擬店・喫茶・創作展・フリーマー
ケット・イベント・フットケアなど

問い合わせ わかぎ
(053-587-2614)

9月20日(日)支援センターわかぎで、マグロの解体ショーが行われました。当日は保護者会が実施され、会の終了後に解体ショーを行いました。約百名が観覧の中、いよいよショーの始まりです。1mほどのマグロに職人さんが包丁を入れ、まずは頭を切り落とします。見事な手さばきで、二枚に下ろし、手際良くお刺身サイズに切り分けていきました。最初はドキドキして眺めていた利用者も、お刺身になっていく様を見て、空腹が我慢できなくなりました。解体を終え、調理が済み、お待ちかねの「マグロ丼」です。新鮮で脂ののったマグロの味は格別で、「おいしい!」という声が各テーブルからかれ、ボリュームのあるマグロ丼に大満足でした。

マグロを堪能!



—小羊学園写真集—

③

毎日の風景

(洗濯物畳み)

大きな洗濯機で昼夜問わず回り続ける洗濯物。乾いたものをせつせと畳む作業の繰り返し。この40年でどれほどの衣類やオムツが洗濯に出たことか?

職員だけでは追いつかない洗濯物畳みには、多くのボランティアの支えがありました。毎月、定例でお越しくださるグループも多く、中には開設当初から今に至るまで、奉仕いただいている方々も…感謝/感謝/です。

おもちゃ・絵本を探しています



053-414-1666

連絡先 ばびるす 雨宮

幼児期のお子さんを支援している『ばびるす』では、子どもたちが楽しめるおもちゃ・絵本が不足しています。不要になられた方、ご寄付いただけたら幸いです。

編集後記

民主党政権が発足して間もなく長妻厚生労働大臣は記者団に対し、障害者自立支援法の廃止を表明した。サービス利用の原則一割自己負担や障害程度区分認定によるサービス利用制限等、様々な課題が山積する法案であったが、個人的には、三障害あった法律を一元化したこと、就労を意識したサービス体系を盛り込み社会的な自立を促進したこと等、理念的には共感出来る部分もあった。政権が交代し民主党が準備する中で、当事者の声に耳を傾け、支援が必要な人に適切な支援がなされるよう、「障がい者総合福祉法」(仮称)の動向を見ていきたい。(F)

小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

9月受付分 148,200円 (18件)
累 計 3,098,623円 (223件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)

三方原スクエア内 ☎053-414-1833